

持続可能な社会の実現のための税金

茨城県立並木中等教育学校 1年 野末 有紗

皆さんは、霞ヶ浦の水質保全活動をご存じでしょうか。私は、夏休みに霞ヶ浦で開かれたダンスイベントに参加した。その時に見た霞ヶ浦はとても広大で綺麗だと思った。しかし、私が教科書で見た霞ヶ浦はアオコが湖上に浮いていて、とても綺麗とは言えるものではなかった。私は、なぜあれだけ汚れていた霞ヶ浦が綺麗になっているのか疑問に思った。調べてみると、霞ヶ浦の環境改善のために森林湖沼環境税等の税金が使われている事が分かった。私は、環境対策に税金が利用されていることにとても驚いた。

そこで、環境税について調べてみた。この税金は、湖沼の他に森林の保全や環境破壊対策、太陽光・風力発電等の再生可能エネルギーの推進等に使われている。更に、二〇二四年には住民税に上乗せする形で森林環境税が創設されるそうだ。この税金は森林環境の保全に関する事を目的とした税で、税金の個人負担が増えるため話題となっている。私は、森林再生は環境負荷の軽減に繋がるため、必要な負担だと考えた。

また、以前、桜植樹のボランティア活動に参加した事を思い出した。その日、私達は、約五〇本の桜の木を植えた。活動を終えた後に、活動の代表者が、

「一年間で木一本が取り込むCO₂は約十四 kg で、人間一人が呼吸で排出するCO₂は約三二〇kg。だから、人間は、一年で木、二十三本分の呼吸をしている。今日、木を植えたことで、地球温暖化の抑制に貢献することができた。」とおっしゃっていた。私は、改めて木を再生する大切さに気付き、植樹活動に参加する事で、自分自身が我が国の環境を守る一翼を担っていることを実感した。この様な植樹ボランティア活動にも税金による支援がなされている。今後、森林環境税の導入により、我が国の地球温暖化対策の第一歩が始まる。

しかし一方で、森林再生には課題がある。それは、林業に従事する人材の高齢化と不足である。この課題が原因で放置された森林が増加している。課題解決のために今後、次世代の森林作りを担う人材の確保・育成や、スマート林業に税金を投入するのは良い方策だと考える。スマート林業とは ICT やロボット等の技術を活用する林業の事だ。これにより、森林管理や林業の省力化、経営の効率化等が図られる。そして、少ない従事者での運営が可能になり、安全面やコスト面等、様々な側面の効率化に大きな期待が寄せられている。

では、私達にできることとは何だろう。スマート林業を進めるには、技術革新が不可欠だ。また、この技術革新を担う若者達が林業や環境の問題について知り、興味を持つ事が大切だ。そのために、この問題をより多くの人に知ってもらえるよう、ボランティア等に積極的に参加し、啓蒙活動を行っていきたい。また、将来、納税を通じて、持続可能な社会の実現を担う人材になりたい。